

秋田地区営農フェア



10月20日(金)と21日(土)、秋田地区営農フェアが雄和支店の敷地内で開かれました。来年度用の肥料や農薬の予約注文と日々の営農にかかる相談を同時に受け付けるコーナーや、農機具の展示などが行われ、延べ410戸の生産者が訪れました。

来場者は今年度の農産物の生育を振り返りながら、営農経済部の職員や各メーカーの担当者や農業資材や技術などの最新情報を話し合い、職員らは生産コストの軽減や農作業の効率化に効果的な商品を生産者に提案しました。金融共済ブースでは、担当職員が農業資金や共済について答えました。会場内には生産者に今年産米の特徴を理解して品質向上に役立ててもらうため、品質検査で見られた「胴割粒」「乳白粒」「腹白・背白粒」「全面着色粒」を展示。生産者は玄米の状態を見比べて意見を交わしたほか、品種や等級を当てるクイズに悩む姿も見られました。ダリアの展示や「あぐりんなかないち」の出張販売、交通遺児への募金ブースなども設けられ、多くの人でにぎわいました。

1 … JA職員に相談する生産者でにぎわう会場
3 … 最新の除草剤の情報を交わす来場者
5 … 農機具を見る生産者

2 … 玄米を見て品種や等級を当てるコーナー
4 … ダリア「NAMAHAGE」シリーズの最新品種や人気品種が並びました

秋のイベントで管内農産物などが好評



管内外で多彩なイベントが行われた10月、当JAが地場産の農産物や加工品を販売し、管内産品を買い求める人々ににぎわいました。直売所「あぐりんなかないち」は10月8日(日)に開催された「広小路バザール」に出店し、秋田市産のリンゴや梨、枝豆や袋ネギなどを販売しました。生産者も駆け付けてリンゴの試食の振る舞いなどが行われ、広小路を通る大勢の人の注目を集めました。22日(日)にはJA全農あきたがマッチスポンサーを担った「ブラウブリッツ秋田」対「べガルタ仙台」戦が行われ、会場のソユースタジアムの前で「あぐりんなかないち」が出張販売を行いました。

管内外で多彩なイベントが行われました。ブースにはイチジクなどの果物や秋田の特産を使った菓子などが並び、多くのサッカークリアンが立ち寄りしました。21日(土)と22日(日)に愛知県春日井市で開かれた「第47回春日井まつり」にも当JAが参加し、梨「秋泉」「南水」や味ひょうたんなどといった男鹿市の特産品を販売しました。男鹿市と春日井市は昭和62年から児童交流事業を行うなど長年親交があることから、当JAも同まつりに毎回出店しています。男鹿市からは遠方でありながらも、長年のリピーターや評判を聞きつけた人々でにぎわった。ほど好評となりました。

1 … 広小路バザール
2 … 「ブラウブリッツ秋田」ホームゲーム
3 … 第47回春日井まつり